

(様式第2) 社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	嬉野温泉駅から始まる、誘う・魅せる・親しむまちづくり		
計画の期間	平成29年度 ~ 令和03年度 (5年間)	交付対象	嬉野市
計画の目標			

九州新幹線西九州ルートの開業を契機に、嬉野温泉駅を新たなスタートポイントとして、訪れる人を温泉街へ誘うとともに癒して迎える都市の形成に向けて、「嬉野温泉駅から始まる、誘う・魅せる・親しむまちづくり」を大目標に掲げ、以下の目標を達成する。

計画の成果目標 (定量的指標)

- ① 嬉野市の新たな玄関口となる嬉野温泉駅の拠点性を創出し、令和4年新幹線開業に向けて地域住民の取り組みを通じ集客効果を高める。(都市再生整備計画より)
- ② 嬉野温泉駅と嬉野温泉街を結ぶ仕組みを創出し、新たな人の流れを生みだし地区の回遊性を高める。(都市再生整備計画より)
- ③ 観光拠点となる嬉野温泉街の再生を進め、目標①、目標②と連動し訪れる人の増加を目指す。(都市再生整備計画より)
- ④ 拠点へのアクセス性を高める道路や拠点間を結ぶ道路整備を進めることで、地域連携を高める道路環境の向上を図る。

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

	当初現況値	中間目標値	最終目標値	
	(H29当初)	(H30末)	(R2末)	
① 誘うまち・魅せるまちづくり活動推進事業(地域デザイン会議)等におけるまちづくり活動への参加者数(人/年) 新幹線の開業効果を高めるとともに、地域賑わいや魅力形成など嬉野温泉駅の拠点性に向けたまちづくり活動が進むことから、「まちづくり活動参加者数」を指標に設定する。	74人/年	100人/年	100人/年	※バス停の降車人員、宿泊客数は、嬉野市及び全国の人口減少もあり、推計結果として減少傾向にあるが、本事業を通じて、現状維持(増加)することを目標と設定 ※満足度調査の従前値は、平成22年の嬉野市都市計画マスタープラン市民アンケート調査の結果で市全体の平均値。目標数値においては、市平均よりも向上する事を目指して設定
② バス会社が計測する、嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数(嬉野温泉駅方面から温泉街へアクセスする路線のうち、嬉野温泉BC(嬉野温泉)、体育館前、公会堂前のバス停を対象)(人/月) 駅と温泉街を結ぶ、道路ネットワークや交通手段の確保等により駅から温泉街へ来る人の増加が図られることから、「嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数」を指標に設定する。	4174人/月	4174人/月	4174人/月	
③ 嬉野市市勢要覧において計測している宿泊客数(国内)(千人/年) 嬉野市の新たな魅力形成や嬉野温泉街の再生と嬉野温泉駅を連動することで宿泊客数の維持が図られることから、「宿泊客数(国内)」を指標に設定する。	507千人/年	507千人/年	507千人/年	
④ 住民アンケート調査における「市街地内や集落内の身近な道路」に関する満足度(ポイント)※「満足5点」「やや満足4点」「普通3点」「やや不満2点」「不満1点」で算出した時の平均点 拠点へのアクセス性を高める道路や拠点間を結ぶ道路整備が進む事で、道路環境の改善が図られることから、「道路環境に対する満足度を指標に設定する。	3ポイント	3ポイント	3ポイント	

全体事業費	合計(A+B+C)	550百万円	A	550百万円	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.0%
-------	-----------	--------	---	--------	---	---	---	---	-------------------------	------

事後評価

○事後評価(中間評価)の実施体制、実施時期	
事後評価(中間評価)の実施体制 嬉野市都市計画審議会	事後評価の実施時期 令和5年3月 公表の方法 市役所ホームページで公表、新幹線・まちづくり課(嬉野庁舎)で閲覧

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A 基幹事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容・規模等	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	備考
								H29	H30	R1	R2	R3			
A10-001	都市再生	一般	嬉野市	直接	嬉野市	嬉野温泉・嬉野温泉駅周辺地区都市再生整備計画	駅前広場、緑地、観光文化交流センター	■	■	■			163		
A01-002	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市道温泉駅一丁目線	L=310m	■	■				23		
A01-003	街路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	都市計画道路新幹線嬉野温泉駅2号線	L=62m	■					7		
A01-004	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市道下野辺田西山線	L=770m					■	67		未実施
A01-005	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市道本村下宿線	L=170m					■	190		未実施
A01-006	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市道築城大橋線	交差点改良					■	100		未実施
合計												550			

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	備考
										H29	H30	R1	R2	R3			
合計												0					

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	備考
										H29	H30	R1	R2	R3			
合計												0					

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況								
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<p>■まちづくり活動参加者数 都市再生整備計画事業で実施した官民連携手法などのまちづくり活動を契機に、多くのまちづくり活動の展開が進んだことで参加者の増加につながり、数値目標の達成に至っている。</p> <p>■嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数 都市再生整備計画事業で実施した駅周辺整備や空き店舗対策等により地区の魅力が高まりつつあったがコロナ禍の行動制限により利用者が減少。</p> <p>■宿泊客数（国内） 都市再生整備計画事業で実施した駅周辺整備や空き店舗対策等により地区の魅力は高まりつつあるがコロナ禍の行動制限により急激に国内外の旅行者が減少。</p> <p>■道路環境に対する満足度 複数の道路改良が実施できず、環境改善が見られなかったことが直接的な要因。しかし、駅周辺では、新幹線開業にあわせて道路環境の改善が進み、一定の効果がみられる。</p>						
II 定量的指標の達成状況	指標①（まちづくり活動参加者数（人/年））	最終目標値	104	目標値と実績値に差が出た要因	新幹線開業や駅周辺でのまちづくりを契機に未来技術（VR/AR、AI、5G、自動運転など）を活用して嬉野観光を賑やかにするため、「嬉野市未来技術地域実装協議会」を設置し、嬉野市の発展に取り組むためのまちづくり活動に対する民間事業者や地元関係団体からの参加者数が増大したため。			
		最終実績値	334					
	指標②（嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数（人/月））	最終目標値	4,174	目標値と実績値に差が出た要因		令和2年以降はコロナ禍による行動制限等により、目標年度となる令和3年度末時点では全国的に公共交通利用が大幅に減少しているため。		
		最終実績値	4,075					
	指標③（宿泊客数（国内）（千人/年））	最終目標値	507.2	目標値と実績値に差が出た要因			令和2年以降はコロナ禍による行動制限等により、目標年度となる令和3年度末時点では全国的に旅行者が大幅に減少しているため。	
		最終実績値	292.0					
	指標④（道路環境に対する満足度（ポイント））	最終目標値	3	目標値と実績値に差が出た要因				事後評価時点で、目標値は達成しているが、当初計画における現況値（3.10ポイント）と目標値（3.27ポイント）を鑑み、未達成と判断。第3回変更時（令和元年8月）に、目標値を小数点以下2位から小数点以下0位に変更しており、客観的な評価に支障がある。
		最終実績値	3.04					
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		<p>新幹線開業にあわせてまちづくりが進んだ結果、アメリカ大手のホテルなど民間開発が進んでいるほか、道の駅「うれしの まるく」では開業1ヶ月で土日は1,000人の来館者があるなど、様々な波及効果が生まれている。 また、未来技術社会実装事業により「デジタルモール嬉野」が開設され、メタバース空間への展開の試みが始まっている。</p>						

3. 特記事項（今後の方針等）					
<p>●嬉野温泉駅前機能維持のための取り組み…店舗立地等を誘導。近隣自治体と連携した広域的誘客促進や、メタバース活用等新たな観光まちづくりを展開。まちづくり会社や各種団体等と連携し、地域と観光客をつなぐ持続可能な独自の魅力を創出。</p> <p>●嬉野温泉駅と温泉街の移動や回遊性向上…道路や公園・広場等の美化に努めるほか、「地域公共交通計画」に基づいた公共交通ネットワーク見直しや、自動運転の導入に向けた検討、温泉街の空き店舗対策等を推進。</p> <p>●温泉街の活性化と宿泊客数の維持…地域内の各産業と連携した魅力創出、「嬉野版DMO」による観光まちづくり推進。</p> <p>●官民連携による民間事業者の参画…旧医療センター跡地と隣接する都市公園との一体的な利活用を推進。「うれしの まるく」のより魅力的で効率的な施設運営を検討。</p> <p>●未整備の道路計画区間の整備推進…国・県と連携し道路整備を進めるとともに、観光地の魅力を感じさせる整備方法を検討。</p>					